

# 哀し恋 歌碑ひっそり

## 「名作」を往く

「誰にこがれて 木の浦つばき 紅く 咲くやら 燃えるやら」

一節だ。歌詞に出てくる「木の浦つばき」は千本椿のことかなと、時を経て薄くなった

碑文を見ながら思った。

石川県珠洲市指定天然記念物「徳保八幡神社」内の、見事な巨木があるヤブツバキ群生地「徳保の千本椿」のほど近く。「ラケット道路」と言われる県道沿いのツバキの森の中にひっそりとたたずむ歌碑。そこに刻まれた、キングレコードの歌手大月みやこさんの「奥能登ブルース」の

奥能登ブルースは高橋掬太郎作詞、飯田三郎作曲・編曲で一九六八（昭和四十三）年にリリースされた。当時、記者はまだ小学生で、外で元気に遊び回っていたころ。音楽に興味を持つのはまだ先のことだった。それから、アコースティックギターを始め、バンドも組んだが、フォークソングやニューミュージック一辺倒。ただ、NHK紅白歌合戦に出場したこともある「大月みやこ」という名は知っていた。珠洲に来てから歌碑があると聞いて「えっ」と驚いた。



奥能登ブルースの歌碑

市内在住者でも、大月さんの名は知っていても、歌碑があることを知らない人は多い

## 大月みやこ「奥能登ブルース」

一、だれにこがれて 木の浦つばき 紅く咲くやら 燃えるやら  
逢うて別れて 思い出だけに 生きる女の 身が哀し  
あの夜のうた 奥能登ブルース

二、ひとりたどれば 恋路の浜も やるせないよ  
で 泣けるよ  
いつになったら また来る人か 恋の哀れが 胸にしむ  
あの夜のうた 奥能登ブルース

三、ほれちゃならない 他国の人か 忘れられな  
い 溜め涙  
せめて岬の 燈台あかり 照らせ心の 暗が  
りを  
あの夜のうた 奥能登ブルース

ようだ。歌碑を案内していたルを開催している市内のグループ、大崎塾の平田天秋顧問（モ）も関心の高まりを期待するが「ツバキの木が大きくなりすぎて案内板の設置も難しいだろう」と話す。西山さんは「地元の人に大月さんの歌を聴いてもらえる機会があれば」と力を込める。

珠洲